



厳しい時期にこそ、鍛えて学びを深め、学年の締めくくりへ

「太郎をねむらせ、太郎の屋根に雪ふりつむ。次郎をねむらせ、次郎に屋根に雪ふりつむ。」
(三好達治さんの詩です。 3年生の国語の教科書に出てきます。)

この詩の様に、雪は、六甲山小学校の屋根、運動場、その周りの木々を白く彩り、静かな世界を創り出しています。

2月は、寒さの厳しい季節です。六甲山小学校では、気温が氷点下の世界になります。特に今年の冬は例年以上に寒さが厳しいです。その中で、子供たちは、雪の上を、走り回ったり、雪合戦をしたり、雪だるまを作ったりして、元気に遊んでおり、先人が言った「子供は風の子」を体現しています。

2月は、鍛える時期でもあります。プロ野球やJリーグのキャンプが行なわれます。新しいシーズンを迎えるための身体づくり、体力アップ、技術アップをめざして、自分の限界に挑戦をして、くたくたになるまで鍛えています。

2月は、準備する時期でもあります。寒い中で、木々や花の球根は、春に向けて、我慢をしながら、春の到来、温かい気温になるまで、成長のエネルギーを蓄えて、準備をしながら、待ち続けます。

私たちの学校教育のサイクルもそうです。学年の締めくくりを迎えて、学んだことをまとめ、学んだ力を磨き、より使えるように鍛える時期です。また、より学習が深まるように学び直しを行い、次の学年の学習の準備を行う時期でもあります。一年で一番短い月・2月を有意義に過ごし、それぞれの学年のフィナーレへつないでいきましょう。

教頭 岡村英一郎

